

会 議 録

会議の名称	第1回第2期笠間市教育振興基本計画策定委員会 議事録		
開催日時	令和3年7月15日(木) 午後1時30分～午後3時20分		
開催場所	笠間市役所教育棟 2階 会議室2-1・2-2	事務局	教育委員会教育部学務課
会議の公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <非公開・一部公開とした場合の理由>		傍聴者数 0人
出席者	出席委員：伊藤哲司委員長、松橋義樹副委員長、鈴木宏一委員、川崎幸良委員、 小泉秀人委員、荒川千恵子委員、矢口典子委員、御子柴和之委員、和賀誠委員、 山根将大委員、南秀利委員、本間敬委員、町田満委員、大月裕美委員、 下条かをる委員、堀江 正勝委員 【16名】 教育委員会：小沼教育長 事務局：4名		
議 題	第1回第2期笠間市教育振興基本計画策定委員会		
議 事 （審議経過及び発言内容）			
【配付資料】 <ul style="list-style-type: none"> ・第2期笠間市教育振興基本計画の策定方針について（資料1） ・アンケート調査の実施方法について（資料2） ・策定スケジュール（案）について ・第2期笠間市教育施策大綱 ・笠間市教育振興基本計画策定委員会委員名簿 ・笠間市教育振興基本計画策定委員会要綱 <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委嘱状及び任命書の交付 <ul style="list-style-type: none"> ・小沼教育長より委員各位へ委嘱状及び任命書の交付が行われた。 3. 教育長あいさつ 4. 自己紹介 5. 策定委員会委員長・副委員長の選出 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、委員長に伊藤哲司委員、副委員長に松橋義樹委員を推薦する案が示され、全会一致で承認された。 			

7. 策定委員会委員長あいさつ

8. 協議事項

(1) 事務局説明

- ・第2期笠間市教育振興基本計画の策定方針について
- ・笠間市教育振興基本計画(現計画)における成果と課題
- ・アンケート調査の実施方法について
- ・策定スケジュール(案)について

(2) 意見交換

【質問・意見等】

委員長：「施策の方針5 スポーツの推進」の東京オリ・パラの開催に向けてのホストタウンについて、他自治体では返上した話を聞くが笠間市の現状はどうか。

事務局：事前キャンプはアメリカ、台湾は中止、フランスのスケードボードは今日から合宿を行っている。

委員長：「施策の方針1 幼児教育の推進」についていかがか。

委員：園の連携の面で、園同士のつながりは研修会等でできているが、今はコロナ禍の影響で途絶えている現状。今後もこの状況が続く懸念があるが、なお一層の連携をとることで幼児教育の推進が図られていくのではないかと。コロナ禍のため直接対面して話し合う場がなく、オンライン会議の環境も整っていないため、会議も開かれていない。各園が独自にできることをしている状況である。

委員：小学校と幼保の交流ができていないので、それを行ったほうが小学校にあがってからの生活が安定して送れるような施策がとれるのではないかと。教員同士も小学校、幼保でどのような指導をしているのか見る機会がお互いとれるとよいのではないかと。

委員：学校公開をつうじて幼保の先生が行くチャンスはあるが、コロナ禍もありそれができない。

委員：人員の面でもぎりぎりであるため難しい。

委員：何か法的な問題もあるのか。

委員：それはない。人員の面については認定こども園のため公的なお金で運営しており、決まった数以上は雇えない。また募集してもなかなか応募もない。

委員：小学1年と年長とでは1年ぐらいの差でも身体能力はだいぶ違う。1年生の雰囲気を経験したりできるといいのではないかと。

委員：「society5.0」「小1プロブレム」など教育現場では当たり前を使う言葉だろうが横文字が多い。

委員長：補足説明や言い換えなどが必要。

委員：年長の園児に特攻隊や戦争でたくさんの人が亡くなった話をしたところ、静かに聞いてくれたので関心した。各こども園でそのようなカリキュラムがあれば指導したい。

委員：新しい言葉については、これからの教育は知らない言葉を自分で調べアップデートしていくことが大事。調べる努力が必要である。

委員：「目標指標と達成に向けた取組状況」について、「アプローチプログラム、スタートカリキュラムの作成」は100%であるのに、「今後の課題」では「アプローチプログラム、スタートカリキュラムのさらなる充実」とはどういうことか。

事務局：作成は100%であって、これから内容を拡充していくということ。

委員：「こども育成支援センター」に関しては就学前から関わっているので、「施策の方針2」ではなく「施策の方針1」ではないか。

事務局：現計画の中では学校教育に盛り込んでおり、その成果としてこのカテゴリーに入れた。次期計画ではそのように検討したい。

委員長：「施策の方針2 学校教育の充実」についていかがか。

委員：デジタル化推進として1人1台端末の配布により、今後オンライン授業を進めていく方向でいるが、自宅でのWi-Fi環境やルール作り等、課題が残っている。学校の課題を家で行い教師の端末に提出する、それが現状できない子もいる。

委員：Wi-Fi環境は公共施設の無料Wi-Fiがあるので、そこに行ってやればいいのではないか。家庭学習を自宅でやって提出するのは、学校に行ってから提出できるようにしてはどうか。

委員：それもしている。公共施設に行くのは低学年は1人では行かせられない。また、親の負担にもなる。

委員：工夫してやることを学ぶことも大事ではないか。

委員：何をどのような指標でみていくか、整備率の数はすぐ出せるが、何かを充実させるという指標は何で見えていくか。

委員長：指標を何でとるかが重要

委員：「個別の教育支援計画作成率」平成27年度73.6%であるが、今年度の数値はどうか。

事務局：後で回答する。

委員長：「施策の方針3 家庭・地域・学校の連携強化」についていかがか。

委員：今後の課題にある「子ども会への加入促進」について、子ども会は親の協力が必要。自治会と親の連携、地域とのコミュニケーションがないと加入率は上がらない。子ども会を充実して地域コミュニティが生まれる。それに関連するアンケート内容について「保護者問19」「教職員問13」の回答項目「5 地域活動や行事などを活発にする」に「子ども会をとおして」と入れてほしい。

委員：「子ども会活動による環境ボランティア活動支援・地域住民との交流や活動機会の充実」が成果で上がっているが、現計画ではそれが数値として出していない部分が子ども会の重要性を主張するうえでまだ充分でない。加入率より子ども会の活動がいいということが指標に反映できるようなものを考えていくことが必要。

「教育施策大綱施策の方針3(2) 多様なニーズに対応した教育支援の充実」は現計画のどこにあたるのか。

事務局：前大綱では「施策の方針2 学校教育の充実」に入っていたが、3月に策定した第2次教育大綱で新たに設定し柱となっているものである。

委員長：「施策の方針4 生涯学習・文化活動の推進」についていかがか。生涯学習は一部の人が学ぶ教室的なものではなく、実践的に学びながら問題を解決しながら、何かを変えていくイメージを抱いている。笠間でそのような展開ができるといい。「施策の方針5 スポーツの振興」についていかがか。

委員：「スケートパークの活用」については学校との連携を図りながらスポーツの認知に繋げたい。アクションスポーツの分野ではまだまだ確立されていないため、このような繋がりを使って、スケートパークの活用ができればよい。

委員：地域スポーツの立場で何ができるか、観るスポーツから観てするスポーツとして学校と連携して自分たちを活用してもらうことで笠間市に貢献できるのではないかと考えている。スポーツチームと教育現場との連携により実際にスポーツをするということに繋がら

れるといい。

委員：水戸ホーリーホックでは出前授業等をやっているのですが、そのような繋がりができるといい。スポーツ観戦ツアー等の機会を作ってくれれば、観て、一緒に楽しんだり体験できるので学校側も歓迎する。

委員：地域の子どもたちには無料というこも考えたいが、このようなことを計画の中でどう表現するかまでは考えていない。

委員：特別支援学校でも水戸ホーリーホックが来てくれたりするので、障がいの有無に関係なく交流の機会はある。

委員長：その辺りも視野に入れてほしい。

事務局：はい。

委員長：「施策の方針6 図書館活動の推進」についていかがか。

「資料の貸出し数が8年連続日本一」である要因は。

事務局：他では貸出し数の上限が決まっているが、笠間市は制限がない。

委員長：「資料2」「資料3」についていかがか。

委員：「保護者アンケートご協力のおかげ」の「今後の笠間市の教育の推進に役立てるために実施するもの」の文章を「教育振興の推進」にしてはどうか。

委員：保護者のアンケートはタブレットを使ってではなく紙でお願いしたい。問題数も多く、子どもがいない時に回答することを考えると、タブレットを使う場合子どもが学校にタブレットを持って行ってしまうと回答ができないので、紙を配布したほうが回収率も上がるのではないか。

事務局：デジタル化推進の目標を掲げているので、子どものタブレットを使ってではなく、自分のスマホやパソコンからでも回答できるアンケートであるため、極力デジタル化を進めたい。物理的に整備されていない場合のみ紙ベースで配布・回収を考えている。

委員：スマホ等でQRコードを読み取って回答する方法を園ではしているのですが、今の保護者はそれに慣れている。

委員長：集計するのも早い。対応できない方へのフォローは必要。

委員：性別を問うことについては、今の社会の流れや人権対策からするとどうなのか。

保護者アンケート問12 回答8 子どもに対しての「しつけ」について生活全般に対してか「学習」に対してか意見が分かれるところ。どこまでのしつけを家庭でして、学校ではどこまでやるべきか。問11 回答6「休日や放課後に子ども向けの体験活動やイベントを開催する」について、これを保護者が求めた場合、保護者が期待していることと計画の内容の「教員の働き方改革の推進」という点が合わなくなる。計画と整合性が測れるアンケート内容にしたほうがいいのではないか。

事務局：事務局としては、学校の先生側に立ってしまうが、「しつけ」等については本来家庭でやるべきものではないかという部分でもあるが、内部で精査し検討したい。

委員：地域で少子高齢化が問題となっており、一定の年齢になると地元を離れ戻ってこない。児童生徒アンケート 問4の回答の中に「将来笠間市で役に立つ人になりたい」または「貢献できる人、活躍する人になりたい」等入れてほしい。市の願いとしては、大人になっても笠間市で生活して社会貢献してもらえ人間になって欲しいということから、ぜひ子どもたちに聞いてほしい。

委員長：全体をとおして何かあるか。

委員：笠間市は各年、秋に無料で文化財公開をしている。他では毎年やっているところもある

ので、2年に1回ではなく毎年やってもらえるといい。

委員：「施策の方針3」「成果」として「地域との連携によるコミュニティ・スクールの実践」、「今後の課題」で「コミュニティ・スクールの推進」がある。岩間地区では市のモデル校として、岩間一、二、三小、中学校の4校がコミュニティ・スクールを組織している。地域で学校と関わりあうことは大事だが、地域の方が入り過ぎると先生が負担になってしまう。このよう点から迷いながらやっている。これから少しずつ前進していくところである。

委員：「施策の方針1」「幼児教育の推進」の「アプローチプログラム、スタートカリキュラム」について、それぞれのカリキュラムではなく、それをお互いにつないでいきましょうという意味で、「幼保小接続カリキュラム」と言っている。

委員長：事務局で確認をお願いします。

委員：笠間の教育資源をこれからどのように活用していくか1つの視点である。ムラサキパークやアストロプラネッツをこれから地域へどう巻き込んでいくか。市の文化財も多いがこれをきちんと理解して育てている子どもたちがどれだけいるのか。笠間市は教育に対して何を強みとするのか。子どもたちにどのような教育環境であることをPRしていくか。

発達障害の子が小学校に上がった際、適切な教育を受けられる支援整備が必要になってくる。そのようなことを笠間の強みとしてもいいのではないか。国の学習指導要領のキーワードの1つに「社会に開かれた教育課程」とあり、いかに地域の方に協力してもらって学校の教育活動が進められるかがある。生涯学習、社会教育の進展からも学校教育を支え、その後も教育環境が整備されているものであってほしいと感じる。

一般の方の意見はどうするのか。

事務局：企画政策課で教育振興計画の上位計画である総合計画の改定もあり、そちらでヒアリングを実施する中で教育の項目も含めてもらい、意見を集約できればと考えている。また、パブリックコメントも実施予定である。

委員長：キャッチコピー、例えば「レジリエント」意味は、柔らかい回復力を持った力、「レジリエントな人づくり、まちづくり」、笠間の資源を生かしながら、学びながら、防災の面でも災害に強い、そのように笠間市が全国に売り出せるような、1番のキーワードがあると思う。

事務局：先ほどの質問についての回答、「個別の教育支援計画作成率」について令和2年度100%達成している。

9. その他

(1) 次回策定委員会の日程について

- ・ 次回の開催日程は令和3年11月25日（木）13時30分より開始する。

10. 閉会

以上